

○ 将来人口を見据えた庁舎規模について

(1) 基本構想による庁舎規模の算定

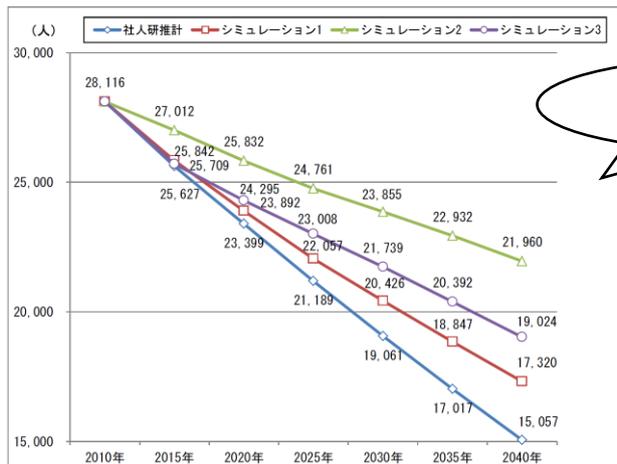
基本構想では新庁舎の規模はR4.4.1時点の本庁舎・別館・花咲庁舎に勤務する職員数及び議員定数に基づいて5,000㎡に設定されています。(令和4年度の住民基本台帳人口22,288人(R4.10.1現在))

規模算定の結果より、**本市の新庁舎の規模は、算定結果のおおよその中間値となる5,000㎡に設定**

※大月市新庁舎整備基本構想より抜粋

(2) 将来人口

本市の将来人口については大月市人口ビジョン(H27.10)により19,000人(2040年)を目標としています。



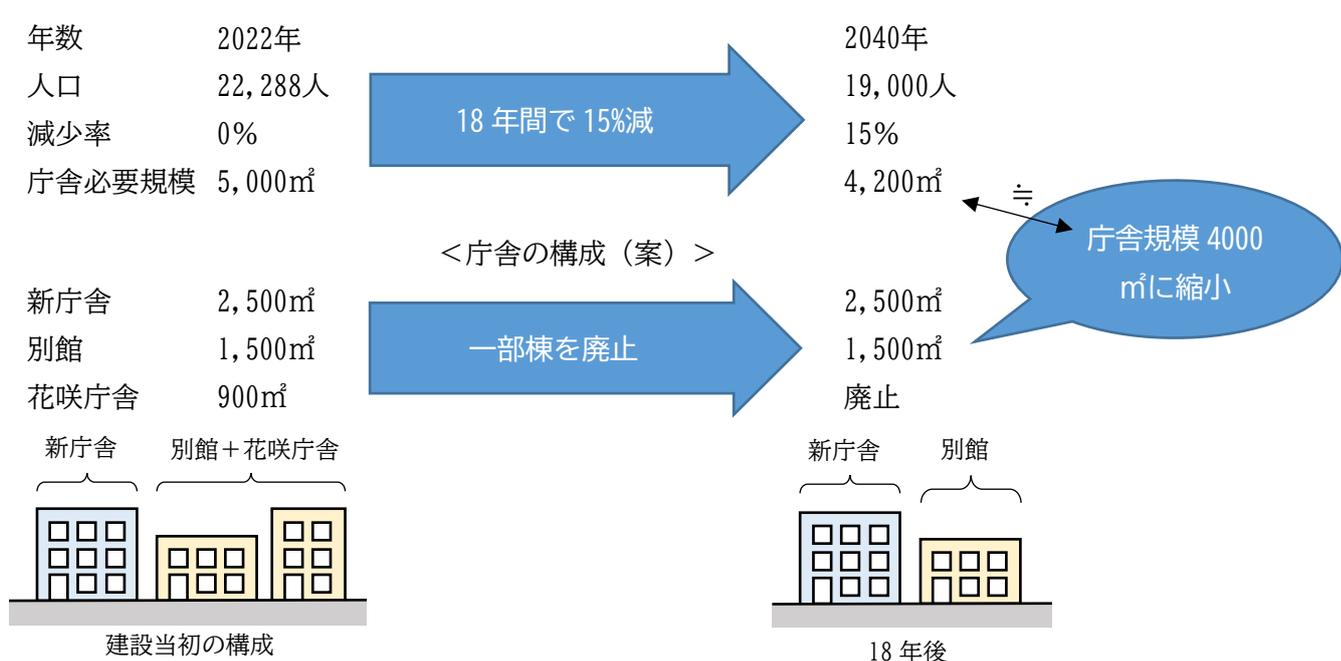
出典:「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)

2040(平成52)年目標人口19,000人
※大月市人口ビジョンより抜粋

(3) 将来人口規模に応じた庁舎規模の推移

庁舎の必要規模は人口減少に応じて段階的に縮小(人口規模に応じて職員数が減少する場合)していく事が考えられます。

既存施設を活用した分棟構成は必要規模の縮小に合わせて構成を縮小、廃止していく事で、庁舎規模を段階的に縮小することが可能です。



庁舎規模4000㎡に縮小

※別館は築29年(今後31年~51年間は運用可能)
※花咲庁舎は築53年(今後7年~27年間運用可能)